

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2016年4月9日（土），日本語教育学会会議室において企画運営委員による2016年度第1回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2016年度春季大会（目白大学）準備の進捗状況について

当日の業務体制，運営面の留意事項を確認した。また口頭発表の辞退が1件あった旨の報告があった。

2. 2016年度秋季大会（ひめぎんホール）準備の進捗状況について

まず，特別プログラム パネルディスカッションについて，企画趣旨や登壇者について説明があった。次に，教材紹介コーナーの出展者募集要項について承認した。

3. 大会事業中長期事業計画について

3月13日の理事会で承認された『公益社団法人日本語教育学会の理念体系2015年度版』について，大会担当常任理事より重点事業項目1～5に即して概要の説明があった。また，大会プログラム上大きな変更があった部分（「特別プログラム」，「交流ひろば」，チャレンジ支援委員会企画等）について報告があった。さらに，学生参加費の設定についても報告があった。2016年度春秋大会では，会員のうち学生の大会参加費の引き下げを試行する。主にポスター発表の刷新および，新設の交流ひろばに関して意見交換が行われた。

4. 日本語教育学会発表規程案について

2017年度春季大会応募（2017年1月締切）から適用する大会・支部共通の「日本語教育学会発表規程」の案を検討し，大会委員会の原案を作成した。本案は，今後，支部活動委員会・常任理事会からのフィードバックを経てさらに検討を進めることになった。

◆2016年5月21日（土），22日（日），2016年度日本語教育学会春季大会を目白大学で開催した。参加者は招待者・関係者を合わせて1,259名であった。

1. 1日目は，開会式に引き続き，四つの会場で8件のパネルセッション（大会委員会企画パネルセッション含む）が行われた。各パネルとも熱心な発表，討議が行われた。

2. 懇親会は，キャンパス内の食堂で行われ，招待者・関係者を合わせて140名の参加者があった。

3. 2日目には，四つの会場で27件の口頭発表，三つの会場で16件のポスター発表，二つの会場で6件のデモン

ストラクションが，それぞれ行われた。どの会場も盛況であった。

◆2016年5月22日（日），目白大学10号館10510教室において全委員による2016年度第2回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2016年度秋季大会以降の企画・運営について

委員長から，秋季大会以降の実施計画について説明があった。また，現査読司会委員は，中長期事業計画の策定に伴い，2016年度秋季大会終了時をもって退任となる予定であることの確認があった。

◆2016年7月1日（金），日本語教育学会会議室において2016年度第3回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2016年度秋季大会（ひめぎんホール開催）準備の進捗状況について

まず，使用会場の手配状況，当日のタイムテーブル案を確認した。次に，チャレンジ支援委員会・調査研究推進委員会による催しについて実施を承認し，タイムテーブル上の枠を決定した。さらに，教材紹介コーナー出展者の選考について，委員会内に設置された当コーナーWGによる選考結果を報告し，承認した。

2. 2016年度秋季大会発表者の選考について

審査の結果，パネルセッション4件，口頭発表24件，ポスター発表29件，デモンストラクション発表8件を採択した。後日，不採択者に送付するコメント執筆担当者を決定した。

3. 2017年度春季大会以降の大会企画・運営について

大会連携合同会議（大会・支部・チャレンジの各委員会委員長および理事で構成する会議体。2015年12～1月に開催）で決定した新たな大会プログラム案に沿って，2017年度春季大会から適用する具体的な時間割の案を作成した。また，2017年度春季大会の午前に行う特別プログラムの企画について，検討状況の報告があった。引き続き，大会委員・大会担当理事で構成されるワーキンググループでの検討を進める。

4. 日本語教育学会発表規程案について

第1回大会委員会で検討した「日本語教育学会発表規程案」について，支部活動委員会・常任理事会からの意見を踏まえて再検討し，大会委員会の成案を決定した。本案は，今後，支部活動委員会による再確認，常任理事会での承認をもって7月末までに確定し，2017年度春季大会応募（2017年1月締切）から適用する。

次回委員会予定：2016年8月25日（木）

（谷部弘子）

● 学会誌委員会

◆2016年7月9日（土），日本語教育学会会議室にて委員

会を開催した。164号の刊行準備、165号特集の各進捗状況について、平成28年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付内定、事業再編検討ワーキンググループ会議『日本語教育』の会合についての報告の後、以下のとおり審議が行われた。

1. 165号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。
2. 165号投稿論文（投稿総数22本（研究論文13、調査報告4、実践報告2、研究ノート3）の審査。
3. 『日本語教育』投稿規程の改定案の承認。
4. 学会誌の電子化に伴う冊子版の部数および冊子版・電子版の価格設定についての告知の準備。
5. 168号特集（2017年12月号）のワーキングチーフの決定と今後のスケジュールの確認。

次回委員会予定：2016年11月12日（土）

（西郡仁朗）

●研究集会委員会

◆研究集会実施報告

1. 2015年度第10回研究集会（関西地区）

日時：2016年3月21日（土）13：00-17：35

会場：桃山学院大学

参加者：125名（会員85名、一般40名）

内容：講演、研究発表（口頭23件）

講演講師：坂本恵（東京外国語大学）

講演題目：「アカデミック・ジャパニーズの聴解」

2015年9月に続き関西地区では二回目の開催となり、地元関西だけでなく、関東、中部、中国地方から所属も大学教員、大学院生、小学校教諭、NGO関係者など多岐にわたる発表者による23本の口頭発表があった。5つの会場に分かれ、文法、日本語教育史、新しい教授法の取り組み、帰国生や年少者対象の教育など幅広い分野にわたり、活発な意見が交わされた。坂本恵氏による講演では中・上級レベルのアカデミック・ジャパニーズの聴解に焦点を合わせ、新しく開発された教材を通して、「聞いて分かる」とはどういうことか、それを総合的な日本語能力につなげるには何が必要かなどについて具体的な提示がなされた。会場からは実際の教室活動につながる質問が多くなされ、活発なやりとりがなされた。

（友沢昭江）

2. 2016年度第1回研究集会（九州・沖縄地区）

日時：2016年4月23日（土）13：00-17：30、4月24日（日）

10：00-16：45

会場：佐賀大学 本庄キャンパス

参加者：89名（会員59名、一般30名）

内容：講演、ワークショップ、研究発表8件（口頭5件、ポスター3件、実践報告5件（口頭4件、ポスター1件）、ラウンドテーブル3件

講演およびワークショップ講師：青木直子（大阪大学）
題目：「変わりゆく世界、変わりゆく言語教育」

本年度は例年より早く4月下旬の開催となった。ただし、構成は例年同様に1日目の土曜日に講演と口頭発表を行い、2日目の日曜日にワークショップとポスター発表、ラウンドテーブルを実施した。直前に発生した熊本を中心とする震災の影響下にあつて、被災したために発表取り下げを余儀なくされた方もいた。開催の是非も問われたが、結果的には熊本からの参加者も含め、例年の8割程度の参加者が集い、各会場では活発な議論が展開された。講演・ワークショップは非会員や、地区外からの参加もあつてにぎやかに行われ、こちらも好評であった。なお、開会にあつては伊東会長より震災の被害に遭われた方への見舞いの挨拶があり、その後、参加者によって黙祷が捧げられた。また、万が一の場合に備えて、会場建物の非常口、緊急避難場所を記した地図を配布し、緊急時の対応についての説明を行った。

（春口淳一）

3. 2016年度第2回研究集会（中部地区）

日時：2016年6月11日（土）10：00-16：40

会場：愛知県立大学長久手キャンパス

参加者：130名（会員87名、一般43名）

内容：講演、研究発表（口頭12件、ポスター4件）、活動報告1件、ランチタイム交流会

講演講師：嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

講演題目「『つながり』を重視した日本語教育をめざす～『会話』から『対話』へ～」

口頭発表は、2会場に分かれ、午前、午後にわたり、計12件行われた。また、ポスター発表会場では、4件の研究発表・実践報告と1件の活動報告が行われた。それぞれ活発な質疑応答が交わされ、時間の短さを惜しむ声も上がった。

お昼には、昨年に引き続き、「ランチタイム交流会」が行われた。各自持参した昼食をとりながら、日ごろ話すことのない人たちと、気軽に研究や教育現場の問題について情報交換、意見交換のできる機会として、参加者からも好評であった。

午後には、講師として嶋田和子氏を迎え、対話による「つながり」を重視した日本語教育について、お話をうかがった。初級レベルの「対話」を意識した授業実践例や、地域社会との「つながり」を大切にした活動例の熱を込めた紹介があり、参加者は引き込まれるようにして聞き入っていた。アンケートでは、自らの授業に生かしたいという感想が多数寄せられた。

今回は、初めての参加者も少なくなく（アンケート提出者33名中12名）、立場や経験のさまざまな参加者が集う、充実した研究集会となったと言えるだろう。

（鷲見幸美）

4. 2016年度第3回研究集会（北陸地区）

日時：2016年6月26日（日）10：00-16：15

会場：石川県政記念しのき迎賓館

参加者：86名（会員32名，一般54名）

内容：研究発表（口頭4件），地域の活動報告ポスター発表，情報交換会：日本語教育なんでもワイワイひろば
午前の4件の口頭発表は，漢字の自律学習，論理的思考力養成のための日本語教育と数学教育のコラボ授業，日本語教育と国語教育の連関表作成，看護師国家試験の誤答原因調査という多彩かつ日本語教育と関連分野との連携に関わる内容で，日本語教育と社会とのつながりを再認識させられるものであった。第2部の地域の活動報告ポスター発表では，北陸4県の合計14団体からのポスターの展示があり，なごやかな雰囲気の中で参加者間の交流が進んだ。第3部の「情報交換会：日本語教育なんでもワイワイひろば」では，「教材・教授法」「活動の立上げ・運営，他機関との連携」「日本語教師としてのキャリア」「仕事のための日本語（例：EPA，ビジネス日本語）」「日本語・日本語教育に関する研究」の5つのテーマグループに分かれ活発にディスカッションが行われた。その後の全体報告会でも，グループでの報告を受けて様々な話題で話が弾んだ。特に日本語教師のキャリアの観点から，日本語教育を学んだ者が必ずしも日本語教師だけでなく，公務員や学校教員，あるいはメディア関係などさまざまな分野においても活躍できる可能性があるという意見に多くの参加者が納得していた。

（札幌寛子）

5. 2016年度第4回研究集会（北海道地区）

日時：2016年7月2日（土）10：00-17：45

会場：北海道大学国際本部グローバル教育推進センター

参加者：69名（会員48名，一般21名）

内容：講演，ワークショップ，研究発表9件（口頭4件，ポスター5件）

講演およびワークショップ講師：石黒圭（国立国語研究所）題目：「日本語教室のピア・リーディング協働学習はどうすればうまくいくのか」

例年同様，今年度の研究発表も，台湾，韓国，アメリカなど海外からの発表，参加者が多かった。プログラム上では10件の研究発表が予定されていたが，直前に1名の辞退があり，最終的に口頭4件とポスター5件の発表が行われた。内容は，日本人学生と留学生の交流科目の実践報告，留学延長学習者のふり返り分析，交換留学生への学習支援クラス，VT法を用いたコリア語母語話者の発音指導や非日本語専攻学習者の学習ストラテジーなど，とりわけ学習者の属性に配慮した教育活動に関連する発表が目立っていた。研究発表の後，講師の石黒圭氏によるワークショップが行われた。前半の講義では，これまでの読解教育研究の方向性について，読解過程と教室

活動という二通りの分析をもとに概観し，引き続き後半のワークショップでは，講師が自ら実践したピア・リーディングの手法を，参加者が学習者の立場から実際に体験してみる活動が行われた。全参加者が積極的にグループワークに取り組み，質疑応答でもさまざまな意見が出されるなど充実したワークショップであった。例年通り，「北海道日本語教育ネットワーク」を共催としたが，ネットワークの会員の参加も多いことから，今後もネットワークとの協力関係を維持していくことが期待される。また，休憩時間を活用して，来年度の北海道地区支部活動担当委員から，今後研究集会に代わって実施される支部活動の在り方について説明が行われた。

（鄭惠先）

◆2016年度研究集会予定

- ・第6回研究集会（四国地区）
2016年11月5日（土），高知大学
- ・第7回研究集会（東北地区）
2016年11月26日（土），東北大学付属図書館本館（川内南キャンパス）
- ・第8回研究集会（中国地区）
2016年12月10日（土），山口大学，発表応募締切：9月11日（日）
- ・第9回研究集会（関西地区）
2017年3月11日（土），大阪YMCA国際専門学校
発表応募締切：11月10日（木）

※例年9月および3月と年2回開催しておりました関西地区研究集会は，2016年度は9月は開催せず，3月のみ年1回の開催となります。発表応募およびご参加予定の方はご注意ください。

※各地区研究集会のプログラム，発表要旨，発表募集情報等は，日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/jissensha/shukai>

◆会議記録

1. 関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）
2016年度第1回関東地区委員会（2016年5月14日）
2016年度第2回関東地区委員会（2016年6月25日）
2016年度第3回関東地区委員会（2016年7月23日）

◆次回会議日程

1. 全体委員会
2016年度第2回研究集会全体委員会（2016年10月9日），ひめぎんホール（秋季大会会場）
2. 地区代表者会議
2016年度地区代表者会議（開催未定）
3. 関東地区委員会

2016年度第4回関東地区委員会（2016年10月22日）

会場：国際交流基金日本語国際センター

定員：40名

● 教師研修委員会

◆2016年度研修実施報告

1. 「演劇を通して日本語教育の現場を見直すー「フォーラム・シアター」体験ワークショップー

講師：花崎攝氏（企業組合演劇デザインギルド）

開催日：2016年6月18日（土）

会場：東京大学駒場キャンパス

参加者：29名

◆2016年度研修予定

1. 夏季集中研修「ワークショップデザイン入門ー自立した企画者になるためにー」

講師：森玲奈氏（帝京大学）

開催日：2016年8月25日（木）・26日（金）

会場：東京大学駒場キャンパス

定員：25名

2. 「学びの「深さ」を再考するーディープ・アクティブラーニングを実現するためにー」

講師：松下佳代氏（京都大学）

開催日：2016年9月3日（土）

会場：東京大学駒場キャンパス

定員：40名

3. 「反転授業ー効果について考えようー」

講師：森朋子氏（関西大学）

開催日：2016年10月22日（土）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

定員：40名

4. 「読解の科学ー第二言語読解の基礎的理解と教育への応用をめざしてー」

講師：山下淳子氏（名古屋大学）

開催日：2016年11月12日（土）

会場：政策研究大学院大学

定員：60名

5. 批判的思考

講師：道田泰司氏（琉球大学）

開催日：2016年12月3日（土）・4日（日）

会場：東京外国語大学

定員：3日（土）100名、4日（日）40名

6. ティーチング・ポートフォリオ

講師：栗田佳代子氏・吉田壘氏（東京大学）

開催日：2017年1月22日（日）

会場：政策研究大学院大学

定員：80名

7. フィールドワーク

講師：八木真奈美氏（駿河台大学）

開催日：2017年2月4日（土）

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルやテーマ、講師、日時、会場、定員等が変更する場合もございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/jissensha/kyoshikenshu>

◆会議記録

1. 2016年度第1回教師研修委員会（2016年4月16日）

(1) 2015年度研修実施報告

(2) 2016年度研修計画

(3) その他

(4) 次回会議予定

2. 2016年度第2回教師研修委員会（2016年7月23日）

(1) 2016年度研修実施報告

(2) 2016年度研修計画

(3) その他

(4) 次回会議予定

◆次回会議日程

1. 2016年度第3回教師研修委員会（2016年11月27日）

（宇佐美洋）

◇ 事務局からのお知らせ

● 年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払 (海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係 (kaiin@nkg.or.jp) にお問い合わせください)。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係 (kaiin@nkg.or.jp) までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会员 10,000円 (年度額)
- 賛助会員 一口50,000円 (年度額)

● 住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp